

新型コロナの影響で今回も8月と9月の医師会報が合併となっています。今回の冒頭で沖縄県医師会の前副会長である宮里善次先生の退任のご挨拶があります。本当に長い間お疲れ様でした。今後もいろいろなアドバイスをもらえることを願っております。

そして新常任理事に就任された中田安彦先生のご挨拶があります。中部地区医師会の会長として、その経験豊富さにいつも驚かされていますが先生のご活躍が本当に楽しみです。

さらに新監事として幸地賢治先生の就任の挨拶は簡潔ではありますがユーモアにあふれ、楽しませていただきました。

生涯教育コーナーはおもろまちメディカルセンターの井上卓先生の論文で「外来高齢高血圧患者の血圧レベル・フレイルと総死亡の関連；Nambu cohort study」です。フレイルでなければ収縮期血圧は140未満の者の予後は良好であるが、フレイルでは収縮期血圧値にかかわらず予後が悪く、高齢者の降圧目標はフレイルがあるかどうかで変わってくる可能性があることが示唆されています。

月間行事の救急の日の寄稿文は琉球大学の梅村武寛先生によるものです。2022年7月時点でのコロナ感染症の爆発的増加が引き起こしている、救急医療の逼迫した状況を述べています。まさに医療崩壊といってもいい状況と思われる。

もう一つの月間行事の「結核予防週間と保健所での結核対策」は沖縄県北部保健所の山川宗貞先生が結核検査の変遷と沖縄、あるいは日本

での現状をわかりやすく解説しています。

本号の目玉はやはり緑陰随筆になると思います。23人の先生方が昔の思い出や、最近の出来事や、趣味の話など様々なエッセイが掲載されて楽しく読むことができます。NAHAマラソン挑戦の話、末期癌患者を本人の希望で自宅へ帰した話、復帰50年に関してその当時の話や、現在の沖縄の現状など興味深いものがありました。その他東京から転勤して、本土と沖縄の違いについての話、開業に際してシステムエンジニアを採用し業務効率化を進めた話、着物を着る楽しみの話、犬と近所の散歩の話、回文作りの話、精神科と外科の二足の草鞋の話などバラエティに富んでいます。

さらにリュウキュウムラサキという蝶の壮大な話、漢方の考え方の話、長寿と予防医療の話、藤井聡太と史上最強棋士の話、貸し農園での野菜作りの話、泡盛（コース）のたしなみ方の話、開業生活を振り返った話、東京から宮古島に転職した話、子供の頃からから海人として働いていて死の危険にさらされた話、産休育休を満喫した話、コロナにより面会が制限されることで健康に悪影響を与えた話、ゴルフの上達を目指した練習法の話など読み応え満載です。ぜひ手に取って楽しんでもらえたらと思います。

今回の随筆ではコロナに関する話がほとんどありませんでした。やはり毎日コロナを気にして生活しているためか随筆では他の話題をと考えた先生が多かったのではと想像しています。

広報委員 古堅 善亮